慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	十六世紀イギリスの大学演劇文化とその商業演劇的展開に関する研究
Sub Title	A study of university drama and its impact on the professional theatre in sixteenth-century England
Author	井出, 新(Ide, Arata)
Publisher	
Publication year	2013
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2012.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は16世紀イングラドのケンブリッジ大学、及びオクスフォード大学における学生演劇の文化史的、演劇史的な意義を一次史料に基づいて再構築し、その全体像描くと共に、両大学の学生演劇文化が、ロンドンや地方都市の商業演劇にどのように接ぎ木され、展開していったかを明らかにした。
Notes	研究種目：基盤研究(C) 研究期間：2008～2012 課題番号：20520256 研究分野：人文学 科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_20520256seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月１５日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０５２０２５６
研究課題名（和文）　十六世紀イギリスの大学演劇文化とその商業演劇的展開に関する研究

研究課題名（英文）　A Study of University Drama and Its Impact on the Professional Theatre in Sixteenth-Century England

研究代表者
井出　新（IDE　ARATA）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30193460

研究成果の概要（和文）：
本研究は１６世紀イングランドのケンブリッジ大学、及びオクスフォード大学における学生演劇の文化史的、演劇史的な意義を一次史料に基づいて再構築し、その全体像を描くと共に、両大学の学生演劇文化が、ロンドンや地方都市の商業演劇にどのように接ぎ木され、展開していったかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
Several surviving texts and documents of University drama give evidence to show that some university playwrights, affiliated with professional troupes or amateur actors, operated under the patronage and for the purposes of government officials. This study has explored their impact on the professional theater of London particularly in the latter half of the sixteen century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：イギリス初期近代演劇・ルネサンス文化

１．研究開始当初の背景

１６世紀イングランドにおける商業演劇の興隆に大学出身の作家達が果たした大きな役割は、F. S. Boas, *University Drama in the Tudor Age* (1914) によって指摘されていたが、それ以降、作家達が学生時代に親しんだ大学演劇それ自体についての研究はほとんど行われてこなかった。近年になって Alan H. Nelson, *Early Cambridge Theatres* (1994)が大学演劇の劇場構造、そして Dana F. Sutton が大学演劇テクストの校訂版を出版するようになり、大学演劇にも注目が集まってきているが、文化としての大学演劇その商業演劇的展開には依然として手がつけられていなかった。

研究代表者はこれまでの研究成果、とりわけ“Christopher Marlowe, William Austen

and the Community of Corpus Christi College,” *Studies in Philology*, 107.2 (2007)、及び「パルナッソスからロンドンへ：１５８０年代における大学と大衆演劇」(2007)で示したように、商業演劇興隆に大きな影響を与えた劇作家 Christopher Marlowe や Thomas Nashe に焦点を当て、彼らの学寮内及び他学寮との緊密な交流関係を明らかにした。さらに彼らが１５８０年代前後のケンブリッジ大学における演劇文化に深く関わりながら、学生演劇の文化をロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木した様子を具体的に明らかにしてきた。

その際、大きな特色となったのは、大学演劇研究に地方史的、或いは文化史的な方法論を導入した点である。具体的には、ケンブリッジにおける大学演劇を、単にアマチュア演劇の文学的伝統から捉えるのではなく、教員・学生集団によって創造された文化的営みとして捉えなおした。その着想は、そもそも大学という社会が、特定の地方や学校から集まった、関わり合いの緊密な多くの集団によって形成されるという新しい知見による。つまり、大学演劇とは学寮集団或いは同郷出身者の集団によって創出され、運営されるものであり、必然的に閉鎖的な大学社会の中で彼らの築いていた庇護関係や敵対関係が反映される。したがって、そこでは都市や地方の政治・宗教イデオロギーがせめぎ合い、そうした闘争的な演劇文化を、大学出の作家たちはロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木したということになる。

こうした知見をもとに、さらに研究の幅を広げることが求められていたというのが、研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

そうした背景を踏まえて、商業演劇興隆に大きな影響を与えた大学出身の劇作家たちに焦点を当て、彼らの学寮内及び他学寮との緊密な交流関係を明らかにしつつ、彼らが学生演劇的な文化をロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木した様子を具体的に明らかにすることを目的とした。

具体的には、Marlowe や Nashe の在籍していたケンブリッジ大学だけでなく、John Lyly や George Peele が活動したオクスフォードにも対象を広げる。これによって複眼的に研究課題を考察することが可能となる。また、商業演劇をロンドンだけに限るのではなく、これらの劇作家たちと縁の深いカンタベリーやノリッジなどの地方都市における商業演劇にも目を向けることで、よりダイナミックな全体像を捉えることを目的とする。

その際、これまでの研究成果、とりわけ”Robert Greene Nordovicensis, the Saddler's Son,” *Notes & Queries* 53.4 (2006)で部分的に明らかにしたように、プロテスタント・ミリタリストと呼ばれる政治家が、地方政治家たちの人脈を利用して、大学演劇文化を商業演劇へと適応させるプロセスをも、個別の様々なケースについて考察し、全体像を明確化させることを目指した。これによって今までの研究成果をさらに発展させることが可能となる。

３．研究の方法

具体的には、大学演劇研究に地方史的、或いは文化史的な方法論を導入し、大学演劇を単にアマチュア演劇の文学的伝統から捉えるのではなく、教員・学生集団によって創造された文化的営みとして捉えなおした。それによって大学演劇における都市や地方の政治・宗教イデオロギーのせめぎ合い、或いは闘争的な演劇文化が、大学出の劇作家たちによって吸収され、それがロンドンの大衆演劇文化にも接ぎ木されるプロセスをダイナミックに考察することができる。そのために、

(1)文学作品の分析
(2)大学学寮及び地方都市の演劇関係一次史料の調査
(3)地方史に関する第二次史料の調査

という三つの側面から研究を進めた。具体的には以下の通り。

(1) 文学作品の分析

1570 年代初頭から 1590 年代初頭までにケンブリッジとオクスフォードで上演された演劇、或いは両大学出身学生が執筆した演劇、韻文、散文を史料として射程に収め、大学演劇文化との関係が深い作品を読み解き、その分析を試みた。とりわけ 1570 年代初頭から 1590 年代初頭までにケンブリッジとオクスフォードで上演された演劇、或いは両大学出身学生が執筆した演劇、韻文、散文を史料として射程に収め、Robert Greene、Nathaniel Woodes、Christopher Marlowe、John Lyly、Gabriel Harvey、Edmund Spenser、Thomas Nashe などの作家を中心に、大学演劇文化との関係が深い作品を読み解き、その分析を試みた。その際、彼らが影響を受けたと思われる大学演劇の作家達、すなわち William Gager、Richard Legge、Edward Forcet、William Alabaster の作品にも目配りをした。そのため作品の校訂版、或いはファクシミリ・エディション、そしてエリザベス朝の大学史、演劇史関係の図書が必要となるため、大学図書館に所蔵されていない関係図書を充実させ、過不足なく本研究に不可欠な作品群とそのコンテクストの全体像を捉えることができ

るよう心がけた。

(2) 大学学寮及び地方都市の演劇関係一次史料の調査

大学出身の作家達が大学時代にどのような人脈を築き、その人脈を頼りにロンドンや地方都市でどのような作家活動を行っていたのかを明らかにするためには、大学や地方都市の古文書館に残されている演劇関係だけではなく裁判記録や出納簿など、様々なタイプの史料を調査する必要がある。こうした史料は電子化されておらず、出版物としても公にされていないため、実際に古文書館へ赴いて調査を行った。調査を行った古文書館は以下の通りである。

Corpus Christi College Archives (Cambridge)

Cambridge University Archives

Norfolk Record Office

Canterbury Cathedral Archives

Lincolnshire Archives

Bodleian Library

(3) 地方史に関する第二次史料の調査

地方人脈が大学の文化的環境の中でどのような役割を果たしていたかを様々な側面から明らかにするために、地方史（特にイースト・アングリア地方及びケント地方）に関する第二次史料を渉猟した。具体的にはケント地方の史料が纏められている *Archaeologia Cantina*、及び Norfolk Record Society 及び Suffolk Record Society の編纂した地方史料を調査した。

４．研究成果

本研究は、演劇史研究的にみると、Boas や Nelson の劇場研究に欠落していた大学演劇の文化的側面に光を当てる先端的な研究として位置づけられる。その目指したところは Nelson のように百年ほどの時間軸を縦に歴史的に辿ることではなく、むしろ 1570 年代から 80 年代に研究対象を絞り込み、従来の演劇史家が着目しなかった横軸、すなわち人脈の繋がりを可能な限り明らかにしつつ、大学演劇に関わる者達の間に流れるイデオロギーや、演劇を通して発生する政治的対立を射程に収めることであり、さらにそこから商業演劇への繋がりを明らかにすることで、商業演劇が帯びていた政治宗教性を学生演劇文化から逆照射することであった。これが本研究最大の特色であり、独創的な点である。そういう意味で本研究は、イギリス演劇史の空白部分を埋め、大学演劇文化の重要性の再認識に貢献すると思われるし、単に演劇史のみならず、地方史、大学文化史、宗教史など、従来の学問領域を横断する意義深い研究となることが予想される。具体的な成果としては以下の三点が挙げられる。

(1) ケンブリッジとオクスフォードの大学出身学生が執筆した演劇や散文を主な史料として用いながら、ロンドンにおいて彼らが職業劇団に関わり、都市文化を変えていく様子を論文として発表した。

(2) 地方記録文書館において史料を調査し、地方都市と大学との密接な関係や人物同士の関係を解明することのできる史料を発見した。

(3) ロンドンの商業演劇を保護していた枢密院顧問官や枢密院の議事録について調査を行うとともに、二次文献の渉猟を行い、とりわけ枢密院と強い関係があったことで知られる劇作家たちが、どのように大学演劇文化の商業演劇的展開に関わったかを考察した。その上で、一つの事例研究を通して枢密院庇護の実態を考察する論文を発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 井出新、「パトロンとしての枢密院」、『シェイスピアと演劇文化』（研究社）所収、2012、216-238.（査読有）

② Arata Ide, “Chivalric Revival and the London Public Playhouse in the 1580s,” *Studies in English Literature* (English Literary Society of Japan) English Number 51 (2011), 1-15.（査読有）

③ Arata Ide, “John Fletcher of Corpus Christi College: New Records of His Early Years,” *Early Theatre: A Journal Associated with the Records of Early English Drama* 13.2 (2010), 63-77.（査読有）

④ Arata Ide, “Nathaniel Woodes, Foxeian Martyrology, and the Radical Protestants of Norwich in the 1570s,” *Reformation* (Journal of the Tyndale Society), 13 (2008), 103-132. (査読有)

〔学会発表〕(計３件)

① 井出新,「ロンドン市民社会における国家意識の誕生--リチャード･ロビンソン『アーサー王事績肯定論』(1582)を中心に」日本中世英語英文学会第 26 回全国大会(2010. 12.05.) 大阪学院大学.

② 井出新,「大学演劇と学寮社会--*Pedantius* 上演(1581)を中心に」日本シェイクスピア協会第 49 回学会(2010.10.16.) 福岡女学院大学.

③ Arata Ide, ″Chivalric Revival and the London Public Playhouse″ International Shakespeare Conference. (2010.08.10.) Stratford-upon-Avon, UK

６．研究組織
(1)研究代表者
井出　新（IDE　ARATA）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30193460